

事例紹介



★78歳女性 一人暮らし（小泉4区）

見守り訪問されている方。民生委員を通じて相談を受ける。

35年近く住んでいた借家の老朽化が進み、大家から立ち退きを迫られているが経済的な事情から引っ越しできないでいた。自宅内は天井が何カ所も雨漏りし、天井にはカビが広がり穴もあいていた。年金は生活費ぎりぎりでも切り詰めながら生活しており、預貯金もなし。2年前からパーキンソン病を患い、薬代も増えていった。日常生活は自立され、歩いて買い物には出かけることが出来たが、いつまでこの生活を続けられるか不安を抱えていた。一人息子は定職につかず、居所もはっきりしないため頼れるのは友人のみだった。

【その後の支援】

住居探しの手伝いを行う。3万円の家賃より安い市営住宅を申し込むが当選ならず。次の申し込みは3ヶ月後。なんとか生活保護に頼らないように過ごされてきたが、雨漏りによる漏電・火災、倒壊の心配から生活保護の相談に踏み切り、別の借家に引っ越すことができた。これまでの生活をなるべく変えないように、今までの病院やスーパーに近い場所に転居した。自宅内の片付けが心配されたが、病院でたまに会った地区社協の方が家に来てくれたそうだが、自分で頑張りたいという思いから親類や友人、業者を利用して今も少しずつ片付けている。



★74歳男性 一人暮らし（小泉1区）

富士根郵便局から相談。以前に区の見守り訪問に参加していたので、気になるお客さんについて富士根包括に相談しようと思ったとのこと。

以前から物忘れの訴えがあったが最近通帳や印鑑の紛失、再発行が頻回になっている。同じ日に2度来店することもある。一人娘がいるが九州在住であり相談する事ができない為、本人に富士根包括を紹介したので連絡してあげてほしいという電話だった。

【その後の支援】

自宅に訪問し生活状況を把握する。身の回りの家事全般は几帳面に行っており、車の運転をして買い物にも出かけていたが、食事も抜いてしまうため、少しずつ痩せていた。また、短期記憶が留まらず、1分前の事も忘れてしまう時があるため、財布や通帳を何度も確認していた。

通帳の再発行の手続きに同行し、通帳の置き場所を決めた。また介護保険を利用するために受診に付き添いMRI検査をし、アルツハイマー型認知症と診断を受け服薬開始となった。遠方の娘にも連絡し、今後の支援のための連携を始めた。介護保険を申請し、娘が帰省し介護サービスの契約などを済ませてくれた。

現在は週に2回ヘルパーが食事支援に入っている。通帳の置き場所を決めたことで以前より紛失する頻度は減ったが、他人に管理されたくない性格のため、金銭管理が今後も課題となっている。